2019年度事業報告書

共同生活援助事業（グループホーム）

山本靖雄

2019年度は「秋篠ハウス4名（男性）」・「若葉ハウス5名（女性）」・「富雄ハウス6名（女性）」の3事業所で実施した。秋篠ハウスは1名の定員の空きのまま実施した。若葉ハウスは例年通り5名で実施した。富雄ハウスは4月より2名の新規利用者と契約し、6名で実施した。（2018年3月に体験宿泊を経験）2名の新規利用者とは契約前にご本人、ご家族と面談を重ね、グループホームに関しての説明（重要事項説明書）はもちろん、アセスメントを通して、ご本人がスムーズにグループホームに移行できるように努めた。また、世話人にもスタッフミーティングを通して、本人についての情報共有を行った。

徐々に本人のペースで過ごせるようにはなってきている。しかし、今までの生活背景、家族関係、友人関係、今のグループホームのメンバーとの関係性などで悩む事はあった。その都度、統括施設長、相談支援員、グループホームスタッフで話を聞き対応した。

各ホームの利用に関しては、コンスタントに利用している。しかし、各ホーム共に平均を下回っている月もある。原因としては1月、5月、8月、12月は長期休暇の為、実家に帰省するメンバーが増えた。しかし、例年体調不良などで宿泊を急遽キャンセルされるメンバーさんもいたが、2019年度は体調不良による宿泊のキャンセルが減る傾向にあった。何より、スタッフ間でメンバーの体調に関しての情報共有も出来ていたことが、体調管理にも繋がったのかもしれない。

メンバーの様子として、全てのグループホームに共通している事は、実家とグループホームを上手に使い分けている事がある。メンバー各々生活年数が増えてきた事で「自分の家・部屋」と言う感覚や意識が強くなってきた。また、メンバーの中から「楽しい」「泊まりたい」と言う声が多く、そういった所がスタッフのモチベーションにも繋がっている。

しかし、年齢の上昇に伴い、体力面・体調面・精神面に不安が出てきているメンバーもいる。具体的には、病気・入浴介助・通院・服薬の管理・睡眠の不安定・精神的不安定などである。その都度、メンバー１人１人の訴えを聞き対応した。また、家族との連絡、連携も大切にしてきた。

スタッフに関しては、情報の共有が不足している現状があった。スタッフミーティング、個別面談を通して1人1人の意見を聞き連絡を密に取ってきた。また、スタッフ間だけの連絡ノートも作り、何か疑問に思った事、連絡事項は記入する事を行った。

また、その都度の悩みの連絡相談にも対応した。ケアに対しての疑問点、問題点、今抱えている悩みなどを聞く事を行い徐々にではあるが風通しの良い環境が出来て来た様に感じる。

他施設との交流として、メンバーは奈良市のグループホーム交流会に参加、お花見・運動会を通して交流を深め、スタッフは2ヶ月に1度開催される奈良市グループホーム会議に参加し情報交換、他施設のグループホーム見学を行った。

グループホームは、地域の一員として暮らす場として、年々メンバーの生活の基盤になってきている。